

代 表 者

行 政 視 察 報 告 書

平成30年 2月 7日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員 林 敏夫

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

平成30年 1月22日(月), 23日(火), 24日(水)

2. 調査項目

沖縄県 南風原町 子どもの貧困対策について

---

沖縄県 糸満市 送迎バス活用モデル事業について

---

沖縄県 宜野湾市 健康づくり支援事業(美らがんじゅう体操)について

---

3. 参加議員

山本議員、中原議員、林議員

沖縄県 南風原町

■調査項目

子どもの貧困対策について

・調査対応者

沖縄県南風原町

南風原町議会 宮城清政議長、民生部こども課 前城充課長

・調査期日

平成29年1月22日（月）午後3時30分～午後5時

・南風原町の概要

人口：37,659人

世帯数：14,165世帯

・調査目的

南風原町が取り組んでいる子どもの孤立（貧困）対策の取り組みが大きな成果を上げていると聞き、その推進施策を調査し、呉市への子どもの貧困対策への提言をするため。

・調査内容

【南風原町からの説明】

1. 南風原町子育て世代包括支援の仕組み（南風原町ネウボラ全体像）

2. 子どもの孤立（貧困）対策の仕組み

について説明を受けました。

（詳細は添付資料を参照）

【質疑応答】

主な質疑は以下のとおり。

Q：貧困家庭の背景をどのように捉えていますか

A：沖縄県の最低賃金は全国で一番低く、フルタイムで働いても生活保護以下の金額しかない。

そして、若年（10代）出産も全国比で高く、離婚率は全国1位で多くシングルマザーが多い。

Q：子ども孤立（貧困）対策の具体的な事業は

A：「子ども元気ROOM」事業として町内2ヵ所で子ども達の居場所づくりを実施しています。

Q：「子ども元気ROOM」は月曜日から金曜日迄の放課後（15時～22時）対応されていますが、利用料金はどの程度ですか？

A：食事を含めて全て無料です。

Q：もう1か所の「元気ROOM」（カナカナ）は金曜日の夜から日曜日迄運営されていますが、2ヵ所の運営で365日対応されているということですが、財源は？

A：100%国からの補助金で賄っています。

Q：「子ども元気ROOM」の効果をどのように把握されていますか？

A：平成28年5月16日から事業を開始したので、数字的には把握出来ていませんが、子どもの居場所の確保、児童・生徒の孤食支援・親の養育支援等になっていると考えます。

【呉市での展開の可能性】

貧困連鎖を打破する為には、南風原町の365日運営している「子ども元気ROOM」の取り組みが大いに参考になったので、呉市での貧困対策の一助となるように更に研究していきたい。

沖縄県糸満市

■ 調査項目

送迎バス活用モデル事業について

・ 調査対応者

糸満市議会 大田議長

糸満市福祉部介護長寿課長

・ 調査期日

平成30年1月23日（火）午前10時30分～12時

・ 糸満市の概要

人口：61,382人

世帯数：25,731世帯

・ 調査目的

送迎バス活用モデル事業が交通弱者の利便性に一定の成果を上げていると聞き、その事業を調査するため。

---

---

---

---

---

・ 調査内容

【糸満市からの説明】

1. 送迎バス活用モデル事業（ブーゲンビレア号）の概要

1) 導入の経緯

糸満市新交通体系導入可能性調査（平成18年度）及び公共交通の課題

2) 事業の概要として協力事業者、利用対象者、運行コース、登録者数、利用者数等

説明を受けました

（詳細は添付資料を参照）

---

---

---

---

---

**【質疑応答】**

主な質疑は次の通り。

Q：協力事業者とは、そして協力事業者の職種、何社いますか

A：送迎バス活用モデル事業の趣旨に賛同し協力できる事業者が、自らの業務で運行している送迎バスを活用して、高齢者の外出支援等に協力してくれる事業者で、現在は糸満自動車学校、南部病院、西崎病院及び老人デイサービスセンターソフィアの4社です。

Q：バス利用者は無料とお聞きしましたが協力事業者への補助金は

A：協力事業者の無償協力のもと、協力事業者の本来業務に支障が生じない範囲で、空席を活用させていただいています。

そして、バス搭乗中の事故に備えて普通傷害保険に市が加入しています。

Q：運行コース及び乗車する場所は

A：各事業者の運行コース内で、全11コースあります。

乗車する場所は送迎バスが通過する路線バスの停留所で送迎バスが見えたら手を挙げて合図する。

Q：実績及び成果は

A：ひと月当たりの平均利用人数は増加傾向にあることから、高齢者の外出支援等に一定の効果があると考えています。

**【呉市での展開の可能性】**

赤字路線バスの運行を維持するために、バス会社に対して補助金を出して生活バスを維持することも大切ですが、糸満市のような協力事業所を募集し、協力事業者の送迎バスの空席を活用して交通弱者の足を確保する方法も良い方法だと思うので、呉市に展開できないか更に調査していきたい。

沖縄県宜野湾市

■ 調査項目

健康づくり支援事業（美らがんじゅう体操事業）について

・ 調査対応者

宜野湾市健康推進部健康増進課

中里美智子課長 當山ゆかり係長

・ 調査期日

平成30年1月24日（水）午前10時～午前11時30分

・ 宜野湾市の概要

人口：98,377人

世帯数：43,260世帯

・ 調査目的

地域健康づくり支援事業として肥満に起因する「美らがんじゅう体操」が一定の成果を挙げていると聞き、その内容を調査するため

・ 調査内容

【宜野湾市からの説明】

地域健康づくり支援事業としてオリジナル健康体操を制作した、その目的及び事業内容について説明を受けました。

そして、「美らがんじゅう体操」の指導を受けながら、体操体験をした。

【質疑応答】

主な質疑は次の通り。

Q：オリジナル体操を制作しようとした経緯は

A：「健康ぎのわん21」計画の運動部会からの企画で肥満に起因する生活習慣病を予防するために、子供から高齢者まで実施可能かつ肥満解消に有効な筋肉運動を取り入れた体操プログラムを開発し、オリジナル健康体操「美らがんじゅう体操」を制作した。

Q：具体的な市民への普及活動は

A：平成19年度からオリジナル健康体操「美らがんじゅう体操」（基本編）を普及している。

保育園や自治会のミニデイ、各種イベント等において活動を展開している。

平成22年度には「らくらく編」を制作し、平成24年度にはオリジナル体操とラジオ体操第1・2が入ったCD Part 3を作成・配布した。

Q：地域健康づくり支援事業における現在までの実績及び成果は

A：オリジナル健康体操「美らがんじゅう体操」を各種健康教室やイベント等で多くの市民へ周知し、運動習慣の普及定着を図ることで、肥満に起因する生活習慣病の予防に寄与している。

生活習慣病発症の主たる原因となる肥満を予防し、肥満者が減少すると必然的に生活習慣病に罹患する患者も減ると推測されることから、医療費削減効果があると見込まれる。

平成21年度には「全国レクリエーション大会インさがさき」で開催されたご当地コンテストで「メタボにさよならで賞」を受賞した。

Q：課題は

A：広く市民へ普及し、毎日の生活で体操の定着を図り、生活習慣病を予防することや医療費等に関するデータとの関連性の分析が難しいことが課題である。

【呉市での展開の可能性】

地域健康づくり支援事業「美らがんじゅう体操」が生活習慣病の予防に寄与していることが、大いに参考になったので、市民の健康づくりの推進に寄与できるように提言していきたい。